



長崎市立三原小学校

～寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ～

「笑顔いっぱい！真剣いっぱい！感動いっぱい！の三原っ子」



MIHARA TIMES

令和3年4月30日発行

文責 校長 宮原 友彦

新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急特別警戒宣言のため、残念ながら長崎市立の小中学校では、5月中の行事について、不要不急の行事以外は無観客もしくはリモートで行うということが決定しました。まず、職員間で協議したところ、運動会はできるだけ保護者に見て頂きたいとの思いから、2学期へ延期して行いたいとの意見が大多数でした。育友会執行部とも協議し、今年度の運動会については2学期以降に実施（中止）することとなりました。2学期に感染症が鎮静化しているという保証はないのですが、少しでも保護者の皆様に観覧していただく可能性が高いとの思いからの決定です。楽しみにされていた保護者の方には大変申し訳ありませんが、御理解御協力をお願いいたします。

三原に吹く風

朝7時30分から8時10分頃まで、赤門と黄色門のいずれかに交通指導に立つようにしています。その際、新しく来られた先生や地域の方から「三原小学校の子どもたちの挨拶は明るくてとても気持ちがいいね。」とよく言われるようになりました。これも保護者の方や先生方の指導が成果をあげてきたものととても嬉しく思っています。「挨拶はコミュニケーションの第一歩」、このコロナ禍の中、数少ないコミュニケーション方法です。何より自分の学校の子も達が褒められると自分のことのように嬉しいものです。その中でも特に、5年生の男の子と4年生の女の子の挨拶にはいつも感心させられますので、御紹介したいと思います。



この二人はいつも「①自分から②笑顔で③相手の目を見て④立ち止まって⑤大きな声で」挨拶ができるのですが、さらに横断歩道を渡った後に、止まってくれた車の方を向いて必ず一礼するのです。朝の忙しい時間に通勤されている車の方も、その行為に思わずにっこり笑顔になっています。物事を習得する際、誰しも形から入りますが、そこに心が伴うことは大人でもなかなかできることではありません。朝から爽やかな気持ちにしてくれる子どもたちに感謝です。

また、今6年生が新しく入学してきた1年生のお世話に取り組んでいるのですが、さすが「輝くリーダー6年生」、本当によく頑張っています。おかげで初めは心細げにしていた1年生もすっかり学校生活に慣れ、特に休み時間を楽しみにしているようです。



感心するのは、嫌々という素振りは全く見せず、自分も心から楽しんでいるように見えるところです。心は行動に現れるので、意図せずとも伝わるものです。1年生に関わることを心から楽しんでくれる6年生の存在はきっと1年生にとって、大きな存在となっていくことでしょう。1年後の卒業の時に、その頑張りはきっと実を結びと思っています。

宮原のつぶやき

遠い昔の初任者の頃、初めての懇談会前にどのような話をすればよいか、尊敬する先輩に話を聞きに行ったことがあります。その時に教えていただいたことは「私のことを好きになってください。」と言いなさいということでした。保護者が担任に好意を示して、「今度の先生は明るくて楽しそうね。」などと子どもに話をしてくださると、子どもたちはすぐに翌日ニコニコしながら親しみを込めて担任にそのことを話します。逆に、子どもの前で担任の批判を繰り返すと、子どもたちは担任の言うことなど耳もかさなくなり、どちらが子どもの成長にとって望ましいかは一目瞭然だと思えます。もちろん人によって価値観は様々なので、指導に対して疑問をもつこともあると思います。その際は、子どもの前で批判はせず、直接担任に御相談してください。三原の先生方はどう指導したほうが子どもにとってよいのかを一緒に考えてくれるはず。子どもを中心に置きながら、「寄り合って、寄り添って、みんなで育て、みんなで育つ」ように、協働できればと思っています。若手には澁刺とした若さの、ベテランには積み重ねた経験の良さがあります。まずは好きになっていただければ幸いです。ちなみに、私はそのまま言うのが恥ずかしかったので、始めに「いろいろと好みはあるでしょうが…（苦笑）」と前置きして話していましたが（笑）